

【エネルギー】 太陽光発電 太陽熱発電

## 2025 年までに太陽エネルギーで米国の電力の 10%を賄える可能性

米国内における太陽エネルギーによる電力供給量は、現在、国内発電量の 0.1%に満たないが、2025 年までに太陽エネルギーは国内電力需要量の 10%を供給できるまでに成長する可能性があることが、最新の報告書により明らかとなった。

研究出版社の Clean Edge 社と非営利組織の Co-op America により作成されたこの報告書によると、2025 年には太陽光発電(PV)<sup>1</sup>システムにより発電された電力で国内電力量の 8%以上が賄われ、集光型太陽熱発電(CSP)<sup>2</sup>システムからも 2%弱の電力が供給されるという予測が立てられている。(これらの予測値は、2025 年時点の太陽光発電システムが 5 万 MW 弱、集光型太陽熱発電システムが 6,600MW 以上と推定して算出。)

同報告書で示されているとおり、太陽エネルギーによる発電は過去 8 年間で急速に拡大してきており、年間成長率は平均 40%となっている。また、化石燃料から発電される電力はより高値になっている一方で、太陽光発電システムの 1 キロワット時当たりのコストは安価になってきている。このため同報告書では、太陽エネルギーによる発電のコストが 2015 年には、米国の様々な市場における従来の電力源のコストと同等になると予測している。ただし、10%の目標を達成するためには、太陽光発電事業者が発電システムの導入を合理化して、太陽光発電を「プラグアンドプレイ」技術にする必要がある。すなわち、システムの構成部品の購入や、それらの組み立て、送配電網へのシステムの連系などを、簡易化しなければならない。

同報告書は、電力会社にも責務を求めている。太陽光発電の便益を活かして、太陽光発電を未来の「スマートグリッド」技術に組み入れ、太陽光発電能力を構築するための新しい事業モデルを作る必要がある。

また、同報告書では、現在の投資および生産税控除を長期延長することや、太陽光発電システムを送配電網に連系するためのオープンスタンダードの策定、電力会社が太陽光発電を料金ベースで選択肢に含められるようにすることなども求めている。

Clean Edge 社のプレスリリース<sup>3</sup>と同報告書の完全版<sup>4</sup>を参照されたい。

翻訳：NEDO 研究評価広報部

出典：[http://www1.eere.energy.gov/solar/news\\_detail.html?news\\_id=11835](http://www1.eere.energy.gov/solar/news_detail.html?news_id=11835)

<sup>1</sup> PV: solar photovoltaic

<sup>2</sup> CSP: concentrating solar power

<sup>3</sup> “New Study Finds that Solar Could Provide 10% of U.S. Electricity Generation by 2025” (2008 年 6 月 17 日付): <http://www.cleandedge.com/about/press.php#061708>

<sup>4</sup> “UTILITY SOLAR ASSESSMENT (USA) STUDY -REACHING TEN PERCENT SOLAR BY 2025” (2008 年 6 月): <http://www.solarcatalyst.com/utilitysolarstudy.pdf>